

令和元年度 真壁城跡^{なかじょう}中城庭園の調査

調査のポイント

真壁城跡中城庭園＝県内最大規模の城内庭園。その“周辺部”の調査。



石敷き遺構(北西から) 東西2.5m、南北1.7mの楕円形の穴の底面に石敷きが施されている。石はほぼ平坦になるよう設置されており、施工技術の高さがうかがえる。雨天時には東側と南側に接する排水用と考えられる溝跡から水が流れ込む構造となっている。(※中央の土橋状の部分は調査用の掘り残し。)



真壁城跡中城地区中央部(北西から) ブルーシートで被われた範囲が近年実施している調査の範囲。本年度の調査区はその右奥部分。手前にはⅡの堀、奥にⅢの堀や外曲輪、奥中央に鹿島神社がある。背景には筑波山地の山々が南北に連なる。



井戸跡(北西から) 埋土の北側半分を掘削した様子。



井戸跡から出土した丸火鉢の一部 中に火種を置く暖房器具。復元直径50cmの大型品。

【調査の目的】

真壁城は室町～安土桃山時代に築かれた真壁氏累代の居城です。平成6年(1994)に国史跡に指定され、保存や整備を目的とした発掘調査を平成9年(1997)に開始しました。現在は中城地区(三の丸)中央部の中世庭園跡(中城庭園)の全体像解明を目的として調査を実施しています。

【中城庭園の過去の調査成果】

平成16・17年度の調査で池跡(南池)や大規模建物跡群、能舞台跡、茶室跡、石組溝跡などを確認し、出土した5,000点を超える遺物から16世紀後半(戦国時代後期)から真壁氏秋田転封の1602年(安土桃山時代・真壁氏幹)までの池泉庭園であることが判明しました。

さらに平成26～29年度の調査では、南池から北へと延びる池跡(水路状の池・北池・薬研堀状の池)や茶室跡などを確認しました。茶室跡は計5棟となり、茶室跡の周囲には園路跡や飛石跡、待合跡などがあり、露地(=茶室に付属した庭)が造られていることが判明しました。なお、池は水が増えると南池から水路状の池を経て北池、そして薬研堀状の池へと水が流れる構造となっています。池跡の範囲が確定し、この庭園の面積は発見されている城内庭園としては県内最大規模であることが分かりました。

平成30年度以降はこれまで確認されている庭園跡の西側の空間(=庭園周辺部)の調査を行っています。露地の内外を分ける石貼りの溝や庭園への導入路などを確認しました。

なお、この庭園跡からは酒宴や茶会で使用したと考えられるかわらけ(杯)や茶道具(天目茶碗や茶湯を沸かすための風炉など)、香道具、中国産の高級磁器などが出土しています。

今回の調査成果

【規模】

庭園とその関連施設の範囲＝中城地区(三の丸)中央部のほぼ全域＝約8,000㎡

【土木技術面】

- ①石敷き遺構(東西2.5m×南北1.7m) → 排水的役割＝浸透枿か → 貯水的役割＝小規模な池
- ②路面補修の痕跡 → 庭園への導入路と城道(城内を巡る道)の合流点 → 導入路(園路3)の長さが確定＝約40m

【精神面】

導入路沿いの井戸跡 → 庭園導入部の手洗い場 → 身を清めて庭園へと向かう

※本資料の作成は桜川市教育委員会生涯学習課が行った。

